
メリーポピンズ中板橋ルーム

令和4（2022）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せ、背中であげてくれる人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちの丈夫な体づくりと感性を豊かにはぐくむため、野外活動を中心にさまざまな活動を行っています
	内容	理念「にんげん力。育てます。」のもとに積極的に野外活動を行っています。近隣の系列園と連携し、やぎやにわとりなどの動物との触れ合いや、どろんこ遊びなどの体験を多く提供しています。また毎日午前と午後散歩を実施して、1、2歳児は片道40分ほどの道のりを歩いています。年度末の親子徒歩遠足では1時間ほど歩き、保護者に子どもの成長を感じてもらっています。園内では裸足で過ごし健康な体づくりを推進し、野菜の栽培収穫活動や芋掘り、りくがめやざりがにに触れるなどの活動を通して子どもたちの感性を豊かにはぐくんでいます。
2	タイトル	計画に基づいた食育活動と工夫された給食などを通じて、食への興味や関心を引き出しています
	内容	どろんこ会グループの「3大食育方針」を基に子どもたちの食に対する興味や関心を引き出すため、0歳児から野菜に触る、とうもろこしの皮をむくなどの活動から始め、1、2歳児はかぼちゃをつぶす、うどんをこねて作るなどの食育活動をしています。野菜を園のプランターで栽培し、子どもたちは水やりなどをしており、きゅうりや大根、しいたけを原木から収穫しました。給食では、誕生日の特別メニューや郷土料理の「十和田のバラ焼」、行事食の「七夕そうめん」などバラエティに富み、子どもたちはいろいろな食材を残さず食べています。
3	タイトル	清掃や整頓が行き届いた清潔感のある保育環境にあり、ハザードマップが掲示されるなど安全対策にも配慮されています
	内容	小規模だからこそ隔々まで行き届いた配慮が求められますが、白を基調としたインテリアが清潔感を高めており、間接照明によって穏やかで優しい保育空間を演出しています。保育室の間仕切りは低く開放的で、ガラス窓越しに見える調理室の様子から食事を楽しみに待つなど、多くの時間を過ごす子どもたちへの気配りが行き届いた環境です。また、保育室に掲示された園内のハザードマップには、子どもが指を巻き込まれやすい場所などを図示して全職員に共有されており、0～2歳児に起こりやすい事故を未然に防ぐための安全対策の一環として評価されます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域における役割が期待されているからこそ、地域のコミュニティとの連携を通してニーズに応えることが期待されます
	内容	福祉に関するニーズは地域によって大きく変わります。その意味で園が置かれた地域の情報はきめこまかな交流を通して得られることも少なくありません。園では子育て支援をテーマとした講座も行っていましたが、さらに広く地域ニーズを把握するうえで、他園及び関係機関との情報交換の場を有効に生かすことも必要でしょう。人員確保が難しい小規模園ならではの課題も理解できますが、交流する機関及び団体などを絞り込むなど、効率の良いコミュニティ活動を検討することを期待します。
2	タイトル	年間計画に基づいた研修や法人本部による研修受講も進められていますが、さらに柔軟な体制で研修に取り組み成長を促すことを期待します
	内容	事業計画に「職員育成と研修計画」を位置づけ、年間の園内研修及び子育てスキル研修計画を策定し実施しています。さらに、法人本部では毎月「保育の質を上げる会議」が行われており、テーマごとにスタッフの参加を促しスキルアップが図られているなど学ぶ機会は設定されていますが、さらにタイムリーかつ現場に即した研修の実施が期待されます。保育士として必要とされる資質、保育技術の向上のためにも、定められた研修計画にはない幅広いテーマによる研修機会が設定されることで、さらなる保育の質の向上につながるでしょう。
3	タイトル	保護者の個別の相談に随時応じるなどきめ細やかな対応をされていますが、今後はさらに面談期間の設定なども検討されてはいかがでしょうか
	内容	どろんこ会グループでは、利用者に対していつでも相談に応じられる姿勢を表明し、きめ細やかな支援、及び個々のニーズの把握と対応に努めています。また園では毎年9月の利用者アンケートとともに年2回の保護者懇談会及び本部担当、施設長などを交えた運営委員会を行うなど、利用者の要望や意見を聞く機会も設けており、送迎時にも気になる点があれば気軽に話してもらえるような関係構築に努めています。今後はさらに、意見を表明しづらい利用者への配慮として、面談期間を設定するなど定期的個別面談の実施も検討されてはいかがでしょうか。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル①	保護者への伝達を確実にするために園独自の仕組みを導入し漏れのないようにしています	
内容①	その日の子どもの状況を、保護者一人ひとりに漏れのないように伝えています。例えば「爪を切してほしい」「おむつを持ってきてほしい」など園から保護者に伝えたい内容を書いたひも付きの札をあらかじめ何種類か作っておき、職員が子どものバッグにつけるようにしています。伝えたい内容ごとに色を変えていますので、与薬の依頼がある時も気づきやすくなっています。お迎え伝達ノートへの書き忘れがあった場合でも、この札があることで伝達漏れが防げる仕組みになっています。こうした取り組みを通じて、保護者との信頼関係もはぐくんでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-2-1	利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている
タイトル②	保護者との風通しの良い関係作りが積極的に進められ、本部からも高く評価されています	
内容②	保護者との綿密なコミュニケーションが特に求められる0～2歳児の小規模園にあって、園では入園前から情報提供を手厚く行うなど保護者との風通しの良い関係構築を目ざした態勢を整えており、その活動は本部から表彰されるなど高く評価されています。保護者同士の懇親の場として年2回保護者懇談会が開かれており、懇談会後には保護者代表はじめ代表、施設長などを交えた運営委員会を開催して日ごろの園運営に関する意見や要望などを聞いています。利用者調査結果にも職員の保護者に対する気遣い、柔軟な対応に感謝の声が寄せられています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	子どもたちは自分で席を決め、好きなタイミングで楽しく食事をとっています	
内容③	食事の時間は子どもたちは自分で座る席を決め、友だち同士楽しく食べています。一斉に「いただきます」や「ごちそうさま」をせずに、食べたいタイミングで食事をとっています。食事のスペースは生活の場と分け、子どもたちは気分を変えて食事に集中しています。職員は子どもの意思やペースを尊重し、無理強いしたり急かしたりしないように見守っています。子どもの自立を見通して、1歳児から自分でエプロンを着用できるように援助し、食器や食具の持ち方は職員がさりげなく教え、マナーを教えながら自分で食べられるように配慮しています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目 カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表 コメント	どろんこ会グループの理念、方針が確立され職員及び保護者への周知が図られています	
	理念及び保育目標などは新年度を前に年間行事などの検討を行う策定会議及びマニュアルの再確認を行うキックオフミーティングなどを通じて計画的に周知が図られています。年1回開催される全職員を対象とした全体研修及び新卒職員を対象としたOJT研修においても理解促進に努めています。また、玄関には理念などが掲示され、入園時に渡される重要事項説明書の冒頭にも明確に書かれているとともに、保護者懇談会及び保護者代表が出席する運営委員会の場においても理解を深めています。	
	施設長は運営本部ミッションを基に園の事業計画書を作成し、職員と共有を図っています	
	運営本部はどろんこ会グループの理念、ビジョンを実現するための果たすべき目標を定めた運営本部ミッションを策定しており、施設長はそれを基に次年度の事業計画書を作成しています。事業計画の内容は次年度の行事計画などを話し合う策定会議において職員に説明すると同時に、目標の共有を図っています。また、施設長は日々の保育が「子ども主体の保育になっているか」を常に確認しながら職員との振り返りの中で指導するとともに、一人ひとりの職員が本部の目ざす保育士としての方向性を見失わないように常にサポートしています。	
本部の経営会議で決定された重要案件は園会議などを通して職員に周知されています		
重要案件に関しては理事長、役員、部長が出席する経営会議において決定され、本部の各部署を通して園に通知されます。施設長は全職員が参加して月に1回開催される園会議において、内容及び決定経緯などについて説明し周知を図っています。決定事項及び経緯は園会議の議事録に記録し、回覧後の押印を義務付けています。また日常の連絡事項はお迎え伝達ノート(園と保護者間の連絡ノート)で情報を共有しています。保護者への重要事項の連絡はアプリによるお便りとあわせて紙媒体の園だより、直接口頭などによって周知を図っています。		
非公表 コメント	カテゴリー1の講評補足	

2		カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリ-1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(000000)
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリ-2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(000)
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(00)
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	<p>カテゴリー2の講評</p>
公表コメント	<p>利用者、職員の意向及び園の状況を把握し、活動を通して地域への浸透を図っています</p> <p>利用者の意向や要望は毎年9月に実施するアンケート及び保護者面談を通じて把握しています。職員の意向は年度初め、年度の間、評価面談と位置付ける年度末と、年3回行う個別面談で把握しています。施設長は園の経営状況を予算実績管理表で管理しています。課題となっている入所状況についても月1回開かれる系列の認証保育所6園の「認証園会議」などで把握しています。現在、園の特長を紹介するオリジナルチラシを作成しており、状況に応じて自治体や児童館、公園などの地域コミュニティの場に配布することを計画しています。</p>
	<p>どろんこ会グループが定める事業計画を基に園独自の事業計画書が作成されています</p> <p>どろんこ会グループの経営方針及び事業計画は全職員が出席する「全体研修」の場において発表され、それに基づいて示される「運営本部ミッション」を参考に、施設長が定めた目標を基に園独自の3か年を見据えた事業計画書が策定され、単年度計画に落とし込まれています。また、事業計画書を基に年間指導計画書が策定されており、毎年2月から3月にかけて振り返りが行われています。研修や職員の提案する企画はあらかじめ予算が必要とされる案件があれば事業計画書に盛り込むなど、計画的な予算編成がなされています。</p>
	<p>事業計画に基づいて着実に実行され、毎月の会議で進捗状況の確認が行われています</p> <p>施設長が策定した目標設定は園担当の本部マネージャーを交えて3段階でその達成度が評価されますが、施設長は毎月の園内研修を確実に実施することで保育を含めた全体的な質の向上を目指しました。また、年度末に行われる「キックオフミーティング」ではマニュアルを見直すとともに、改めて保育指針や園目標などについて話し合われており、職員間の認識を統一したうえで次年度の年間指導計画に反映させています。行事や活動については毎月行われる全職員参加の園会議において振り返りを行うとともに、翌月に予定される行事などの確認を行っています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー2の講評補足</p>

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ-1毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ-2毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評価		標準項目	
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評価		標準項目	
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ-3毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの見学・実習の受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評価		標準項目	
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	カテゴリー3の講評
公表 コメント	<p>マニュアルの配布や人権に関する自己チェックなどモラルを高める試みは周到です</p> <p>最も評価できるのはどろんこ会グループにおける保育サービスの質を高めるための指針を標準化した「保育品質マニュアル」の存在です。その冒頭には職員が守るべき法や規範なども明記されており、常に携行することが義務付けられています。4月と10月、各職員が人権の視点で子どもに対する自らの対応を振り返る「人権チェック」を行い、園会議及び昼礼などの場で共有されています。また、法人本部はメール配信による情報セキュリティチェックや、園を対象にコンプライアンスチェックを行うなどグループ全体の取り組みが周到に行われています。</p> <p>利用者の苦情や要望などは本部と連携して速やかに対応する仕組みが整えられています</p> <p>苦情や意見などの対応については入園時に説明するほか、苦情解決に関する書面を玄関に掲示し、第三者委員も含めて保護者が確認できるようにしています。本部に寄せられた苦情なども園担当の本部マネージャーと共有し、全スタッフに押印を義務付けている「ご意見・ご提案シート」に記録するとともにスタッフ間で改善策を話し合い、報告書にして本部に提出されます。人権チェックによって職員の虐待に対する意識は高く、保護者による虐待が疑われる場合は本部を経由して関係機関に報告する仕組みです。</p> <p>子育て支援をテーマに講座を開催するなど、地域のニーズを捉えた活動を続けています</p> <p>ホームページをはじめ子育て支援情報誌「ちきんえっぐだより」などを通して園独自の活動を伝えるとともに、事業計画書などの開示を通して透明性を高めています。実習生及びボランティアの受付に関しては本部の人事採用部と連携して受け入れています。園では地域のニーズに応じて「子育てスキル講座」を開催しており、ことに保護者に向けた「性教育の低年齢化」は家庭との連携を深めるうえで大きな反響がありました。自治体主催の事業者連絡会や近隣園との交流を通して地域ニーズの把握に努めています。</p>
非 公表 コメント	カテゴリー3の講評補足

4		カテゴリ4	
リスクマネジメント		サブカテゴリ1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる		
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
		サブカテゴリ2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリ4の講評			
公表 コメント	園の立地上、特に注意するリスクも含めたリスクマネジメントが行われています		
	子どもの命にかかわること全てを最優先に火災や地震、不審者侵入などさまざまなケースを想定した月1回の避難訓練を行っています。園が車道に面しているという立地から、特に見失いと飛び出しを主なリスクに想定しています。ことに最近問題となっている見失いに関しては細心の注意を払っており、戸外活動時には人数確認を主に行うスタッフを決めてビブスを着用するなど徹底を図っています。また毎年全職員が保育運営マニュアルを再読して備えています。本部ではリスクマネジメント研修を実施し不測の事故などへの意識を高めています。		
	事業継続計画の役割を持たせた「クライシスマニュアル」を策定し万々に備えています		
どろんこ会グループでは大規模災害や重大な事故に対応するための危機管理マニュアル「クライシスマニュアル」を作成して広い分野での対策を講じており、事業継続計画(BCP)としての役割も持たせています。また「事故発生時対応フローチャート」が作成されており、本社に立ち上げられた対策本部と連携して本部と業務分担するなど、速やかに対策を講じることで短時間での対応を目指しています。園内に自衛消防隊を組織するなど事故に対する高い意識がうかがえます。不審者侵入に備えた訓練も年2回行われています。			
情報セキュリティチェックを行うなど、情報管理に関する高い意識がうかがえます			
保育料や会計データ、入園児情報など機密性が高い情報は、管理するパソコンを限定しアクセス権限を設定しています。また、個人情報に関するものは鍵付きの書庫で保管されており、鍵は施設長が管理しています。収集した情報管理は園と本部が共有できるサーバーによって整理、管理されています。職員に対しては、本部が定期的にセキュリティチェックを実施し、個人情報の取り扱い時の注意点などを確認・認識できる機会が設けられています。個人情報に関する要綱はホームページ上に公開されており、常に保護者が確認できるようになっています。			
カテゴリ4の講評補足			
非 公表 コメント			

5		カテゴリ5	
職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			
評価		標準項目	
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	<p>カテゴリ5の講評</p>
公表コメント	<p>施設長はリーダー人材の育成を旨としており、昇進及び異動に関する提案も行っています</p> <p>新卒職員は入社説明会などを通して本部が一括採用していますが、施設長は離職防止のための面談及び早番、遅番が可能な非常勤職員の確保に向けて本部人事採用部と連携しています。施設長はリーダーとしての資質を持つ人材を見出し、育てることも旨としており、園担当マネージャーと共有しながら昇進及び異動に関する提案を行っています。評価、昇給はどろんこ会グループの人事評価制度に基づいて行われており、各等級の職務や職責が明示されています。育成計画は事業計画書に定められ、キャリアパスに関する説明は正社員のみを対象に行われています。</p>
	<p>保育の質を高めるための会議が行われているなど職員のスキルアップに取り組んでいます</p> <p>全ての職員は保育品質マニュアルを携行しており、法人本部では「保育の質を上げる会議」が毎月行われるなど、どろんこ会グループにおける職員のスキルを高める試みは評価できます。個人別の育成計画はウェブ上の人事評価システムのもとに本人が組み立てた目標を半期ごとに振り返り、目標達成に向けた道筋を確認するなど、人材育成に焦点を当てた取り組みを行っています。職員個別の研修計画が策定されており、園で実施され外部にも公開されている「子育てスキル講座」及び希望して承認された外部研修は、勤務時間内での受講も可能となっています。</p>
	<p>人事制度の見直しなどモチベーションを高める試みは職員にも高く評価されています</p> <p>どろんこ会グループは人事評価制度の見直しを行い目標を達成すれば評価・昇給につながる処遇の見える化を実施しました。希望を聞いたうえで作成されるシフト及び休憩を1時間とれるように組まれたローテーションをはじめ、立場を超えて意見が言える環境づくりなど、働きやすさを醸成する試みがなされています。外部研修などの成果は職員間で共有されており、ポートフォリオの作成によって新たな気づきを得るとともに援助方法を話し合うなど、職員のモチベーション向上につなげています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリ5の講評補足</p>

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>施設長は重要視する課題として「子どもの行動を観察し、個々に応じた遊びや保育内容を創造し実践する」及び「ポートフォリオを活用し、子どもの発達への理解を深めていく」の2点を設定しました。背景には「保育が流れ作業になっているのではないか」「子ども個々の思いを受け止め、傾聴するかかわりがあまりできていないのではないか」という懸念がありました。そのため施設長は園児を観察すること、そして園児の思いを受容しそれに応答する事を職員に求めました。まず取り組んだのが保育士としての行動基準を示した本部によるコンピテンシーシートの活用でした。これに照らして子どもの見方及びかかわり方、声のかけ方などを自己チェックシートを使って自ら振り返りを行い、気づきを促し、毎月「傾聴する保育」及び「応答する保育」をテーマに園内研修を実施しました。またポートフォリオを作成し子どもの様子をこと細かに観察することにも取り組みました。取り組みを行う中で職員への意識づけが進み職員自身も自ら保育への振り返りができるようになりましたが、「個々に応じた保育」につながるかどうかを今後見極める必要があるとしています。</p>	
目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>施設長がリーダーシップを発揮して、傾聴し応答する保育を目標に取り組みを行い、個人面談及びコンピテンシーシートの振り返り、自己チェックシートの作成を通して職員の気づきにつながりました。まず職員の意識を変えることが重要だったことから、職員の意識が「保育を学ぶ」という視点に変化したことで、おおむねその目的は達せられたと施設長は評価しています。具体的な成果として挙げられるのは、自ら学びたいという思いから積極的に研修に参加する動きが多く見られたことです。また、従来の聞くだけの研修から職員自らがグループワークを導入した研修を行うなど、主体的な取り組みができる環境も整えられました。どろんこ会グループでは、理念、ミッション、人事評価制度に至るまで、しっかりとした制度が整えられていますが、園の置かれた状況は画一的ではありません。地域環境及び利用者の特性も一律ではないのも当然です。ことに少人数の子どもと向き合う当園はより密度の濃い対応が求められると考えます。地域のニーズにしっかりと応える意味からも、施設長はどろんこ会グループのコンピテンシーシートの振り返りを通して、目標とする傾聴と応答を基本により質の高い保育を目指しています。</p>	
非公表コメント	カテゴリ7評価項目1の講評補足

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>施設長は目標を「生きる力のある子どもに育てる」としました。その目標達成のために中心に据えたのが農業を中心とした活動です。園内におかれたプランターで野菜を植え、種まきから収穫まで体験することで、子どもたちが野菜の生長に興味を示すとともに、「自分で食べる」意欲の向上にもつなげることを意図しました。しかし、野菜を育てることそのものが計画通りには進まず、思い描いた目標には達しなかったと施設長は実感しています。原因として考えられるのは農業の基本である水と土に対する知識不足及び育てる野菜の選定の失敗、日照への配慮などが考えられました。この検証をもとに今年度は、小さなプランターでの作物とはいえ、食を通して生きる力のある子どもを育てるという目標のもと、施設長は年間農業計画の見直しを行いました。まずプランターを十分に日照が確保できる園の前に設置し、植える農作物の見直しも行いました。その結果、地域の人たちとの交流が生まれるという、思わぬ成果も見ることができました</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>小さなプランターで農作物を育てることで子どもたちの「自分で食べる」意欲の向上につなげるという目標を設定した施設長は、試行錯誤を繰り返しながらも実現に向けた取り組みを行いました。その結果、数種類の野菜が収穫されることで農作物に対する子どもたちの関心も高まり、自分で食べたいという意欲の向上にもつなげたと実感しています。新たに月に2回、近隣の系列園との連携によって「どろんこの日」を設け、子どもたちのために農作物や生き物に触れ合う機会を増やす取り組みも行いました。どろんこ会グループの「3大食育方針」のひとつとして「好きなものを好きなだけ食べる」があります。農業体験はその目標を見える化するための重要な位置づけとなっています。施設長は新たにコンポストを使った肥料づくりに挑戦するなど、食べる楽しさを子どもたちに知ってもらおう試みをこれからも継続していきます。</p>	
<p>カテゴリ7評価項目2の講評補足</p>	
<p>非公表 コメント</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	
あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
あり	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	
サブカテゴリ1の講評		
どろんこ会グループのホームページから教育方針や特色、基本情報を発信しています		
どろんこ会グループのホームページには「にんげん力。育てます。」という理念を掲げ、野外活動を中心とした保育の特徴や保育に対する考え方を説明しています。施設一覧から当園のページを見ることができ、園の写真や基本情報のほか定員、空き情報、利用料金、地図等の情報を掲載しています。さらに、園だよりや地域支援のお知らせ、年間スケジュール、献立や食育便りなども見ることができます。園に対する問い合わせはホームページからできるようになっています。利用中の家庭向けには各種書類のダウンロードができるようになっています。		
園の情報が利用希望者に届くように、行政や関係機関に提供しています		
どろんこ会グループが作成したパンフレットは区役所の窓口においてもらい、入園を希望する人々の手に渡るようにしています。区のホームページでは、区内にある認証保育所の入所可能数一覧表があり毎月更新されています。また区による保育園の案内冊子にも情報を載せています。近隣の児童館や子育て支援センターには園の地域支援の広報誌「ちきんえっぐだより」を置いてもらっています。今後は、園独自の特長を理解してもらうために、園見学の保護者や遠足や散歩時に地域の人に渡せるよう当園の活動の写真に掲載した冊子の作成を検討しています。		
見学や問い合わせには個別の状況に応じていねいに対応しています		
見学は、電話やホームページから申し込むことができます。希望者の都合の良い日を確認して日程を決めています。特に希望がない場合には午前中の9時30分ごろの見学を勧めています。見学の際は施設長が対応し、子どもを預けることに不安を感じている保護者には、不安を軽減させるような言葉かけをして、園での生活について説明しています。定員が満員でも当園への入園を希望する場合には待機登録申請書を出してもらい、空き次第連絡することを伝えています。すぐに入園先を決めたい保護者には、自宅や職場近くの系列園を紹介することもあります。		
サブカテゴリ1の講評補足		
公表コメント		
非公表コメント		

サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
サブカテゴリー2の講評	
新入園児の保護者には個別面談を実施し、園のサービスやルールについて説明しています 入園が決まった子どもの保護者には個別の面談を実施し、入園のしおりに沿った説明や、重要事項説明書の読み合わせをして、保育サービスやルールに理解を得たうえで契約を結んでいます。保護者には面談に先立ち、児童票、健康調査票、生育歴や生活状況を記載する「子どもの姿」を提出してもらい、それらを基に面談を行っています。面談では保護者から離乳食の進行や食事の好き嫌い、昼寝のことなどの質問が出され、園での対応を説明して安心して入園準備ができるようにしています。結果は入所前児童面談票に記入し職員間で情報共有しています。	
公表コメント	子どもの保育に必要な情報をていねいに聞き取り記録し、職員間で共有しています 入園前の面談の際に、子どもについての配慮や健康上の留意点、保護者の事情や要望などをていねいに聞き取り、面談票に記入しています。情報は全職員で確認し、個人ファイルで保管しています。アレルギーのある子どもに関しては、保護者と栄養士、担任、施設長で個別面談を行い、「アレルギー除去開始前面談票」に記入しています。職員間での情報共有は職員会議で行っており、そのほか毎日の屋礼でも共有しています。少人数の園のため職員全員が全ての子どもの状況を把握できるようにしています。
	入園により心身にストレスがかからないよう個々の生活リズムに配慮しています 入園という環境変化により子どもの心身にストレスがかからないよう、子どもが慣れるまで個々の子どもの生活リズムに配慮しています。個人面談の際に保護者と相談して、無理のないように慣れ保育の計画を立て、なるべく同じ職員が対応することで信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせるように心がけています。また、気分転換に戸外活動を多く取り入れています。入園したばかりの時期は保護者も不安であるため、子どもの様子を詳しく伝えて安心してもらうようにしています。親が安心することが子どもの心身の安定にもつながっています。
非公表コメント	サブカテゴリー2の講評補足

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

	サブカテゴリ-3の講評
公表コメント	<p>「全体的な計画」を基にして、各年齢の年間指導計画、月週案を作成しています</p> <p>どろんこ会グループの施設長が提案・作成した全体的な計画を基にして各年齢の年間指導計画、月週案を作成し保育にあたっています。幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」を養うよう各領域を盛り込み個別カリキュラムを作成し、月末に評価と振り返りをします。そこでは「自分でズボンをはこうとしている」「スプーンを持って食べられるようになってきた」など一人ひとりのその月の姿が記録され、翌月に課題をつないでいます。各指導計画は、毎月、毎期に、クラス単位と園全体で振り返りをして、子どもの状況に合ったものへと見直しています。</p>
	<p>子どもや保護者の希望や課題を明確にし、保育に生かしています</p> <p>子どもの授乳や排泄などの発達状況は面談時に細かく把握しています。ミルクの温度や、機嫌が悪い時の対処の仕方など個々の細部にわたる情報を職員間で共有しています。保護者の要望や意見は懇談会や面談で聞き取っています。毎年「利用者アンケート」を実施し、本部で集計したのち、保護者にも掲示やおたより等で結果をフィードバックしています。改善すべき事項は職員会議で改善策を検討しています。保護者からの要望を検討し、受け入れ時の方法や連絡帳の記入方法について改善を行った事例があります。</p>
	<p>毎月の会議や毎日の昼礼により職員は担当以外の子どもたちの情報も把握しています</p> <p>職員は、毎月の園会議や毎日の昼礼で、各クラスの子どもたちの状況を情報共有しています。月に一度の園会議では、子どもたちの状況に加え、給食や行事、研修、保護者対応など、園全体の問題をさまざまな角度から討議しています。全職員が担当以外の子どもたちを含めた全員とかかわりを持ち、それぞれの育ちをミーティングで共有していることが、保護者にも職員にも安心感を与えています。日々の保育についての申し送りは、お迎え伝達ノートに記入して、漏れのないように情報を伝え合っています。</p>
非公表コメント	サブカテゴリ-3の講評補足

サブカテゴリ-5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ-5の講評	
公表コメント	プライバシー保護を徹底し、保護者にも協力を求めています どんご会グループのプライバシーポリシーには情報の収集、目的、利用、管理などについて明記されており、ホームページ上で公開されています。またソーシャルメディアに対する本部の考え方も掲載しています。入園時の契約の際には「お子様の個人情報取り扱いについての承諾書」を用いて、園内の子どもの写真の掲示や、たよりなどへの掲載について同意を得ています。保護者には保護者の撮影した写真・映像や、園が保護者に頒布した写真等は、第三者に公開しないことを約束してもらい、園と家庭の双方向からのプライバシー保護を図っています。
	子どもの羞恥心に配慮した支援ができるように、声かけなどを配慮しています 子どもの羞恥心に配慮した対応を心がけています。着替えの時は裸にならずに上衣、下衣を順番に着替えるよう習慣付けをしています。個室のあるトイレが整備され、仕切られた空間で落ち着いて座れるようになっています。トイレトレーニングをしながらに合わなかったような時も、大きな声などで指摘せず、ほかの子どもに見えないように手早く着替えさせています。名札を使用していますが、取り扱いには注意しています。子どもたちには、自分の体のプライベートゾーンは大事なところだと伝えて、日ごろから意識できるようにしています。
	半年に1回「人権チェック」を実施し、子どもを尊重した対応について話し合っています 毎年4月と10月に本部による人権チェックが行われ、全職員が「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を用いて自己点検し、自分の保育を振り返っています。また研修や毎月の園会議の中でも振り返りを行っています。子どもには「どうしてできないの?」「先に行ってるよ」と言うのではなく、意欲が持てるよう、「やってみようか」など子どものやる気を引き出す言葉を使うことを職員間で確認し合っています。また乳児を抱っこする際には、後ろから突然抱き上げるのではなく、必ず声をかけてするように心がけています。
	サブカテゴリ-5の講評補足
非公表コメント	

サブカテゴリ6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
サブカテゴリ6の講評	
公表コメント	系列園共通の基本マニュアルと分野別マニュアルが園に置かれています どんご会グループの施設長が提案・作成した系列園共通のマニュアル類が整備されています。「保育品質マニュアル」は、企業理念、サービスポリシーに始まり、計画、保育内容、排泄・睡眠、保護者とのコミュニケーションなど、保育園の日常業務を網羅した内容になっています。保育品質マニュアルは全職員に配付され、毎年見直しを行って、4月に改訂版を全職員に配付しています。そのほか衛生管理、感染症、虐待、苦情マニュアルが作成されており棚に置いて職員がいつでも確認できるようにしています。
	園の実情に合った緊急時の避難方法、戸外先のハザードマップを作成しています 業務のマニュアルに沿って遂行しているかどうかについては、定期的に内部監査室による内部監査が入り、その結果により指導を受けています。共通マニュアルは年に1回、施設長による提案、内容の検討がなされていますが、そこに現場から意見を出すことも可能になっています。園としても独自の事情に応じた緊急時の連絡方法や災害時の避難ルート、周囲の公園への道筋や注意事項を記したお散歩マップなど、日常業務に必要な手順を定めています。これらは年度ごとの見直しに加え、必要に応じ随時改訂しています。
	職員や保護者からの意見を反映して保育の改善に生かしています 新年度の園体制を支えるメンバーで行う策定会議では、行事などを一から決めています。子どもたちにどのような体験をさせたいのか、今何が必要なのかを考えて決定しています。保育品質マニュアルの改訂にあたり、毎年施設長が事前に園会議で話し合い、改善要望があれば提案しています。園外活動の際にスタッフが着用する帽子について職員が提案し改善された事例もあります。保護者の意見については利用者アンケートの集計結果から改善に向けて話し合いをしています。保護者の要望を検討して連絡帳に給食の摂取状況を記載するなど改善を図っています。
非公表コメント	サブカテゴリ6の講評補足

Ⅲ サービスの実施(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 35/35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
		6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	非該当
評価項目1の講評			
公表 コメント	子ども一人ひとりの全体的な姿を把握して、発達に応じた保育を行っています 一人ひとりの子どもの発達を把握し子どもが安心できる環境を整え、思いを受け止めるように心がけています。少人数や、発達に合わせたグループを作り、じっくりと遊べる環境を整えています。言葉で気持ちを表せない子どもに対しては、個々の表情や泣く様子、しぐさや行動からも思いをくみ取って声をかけています。子どもに言葉をかけるときは、短く優しくはっきり、ゆっくりとわかりやすい言葉づかいを心がけています。否定的なかかわりではなく、肯定的にかかわるよう意識をして声かけをしています。		
	日々の保育で子どもが自発性を発揮できるように援助しています 職員は子どもの興味や関心をくみ取り、見守りながら、子どもの遊びを導くように接しています。散歩に行きたくない子どもは園内で遊んだり、違うクラスで遊べるようにしています。散歩は午前と午後に毎日出かけており、行き先は子どもに聞いて決めることもあります。子どもが安心できる保育者との関係を大切に考え、自分の思いが伝わることの喜びを味わえるように保育しています。おもちゃは複数用意して、子どもが「やりたい」気持ちで選べるようにしています。職員が遊びに誘導するのではなく、子どもに「気づかせる」ように促しています。		
	子ども同士のトラブルは、お互いの気持ちを受け止めて対応しています 乳児はかみつきやひっかきなどのトラブルの多い年齢ですが、成長の中で大切な機会と考え、子ども一人ひとりをよく観察し、いつもと違う様子に注意するなど未然にトラブルを回避するように努めています。言葉で表せない子どもに対しては職員が気持ちをくみ取り、「いやだったね」「使いたかったんだね」などと気持ちを代弁しています。保護者には発達の過程で友だちとのかかわりの中で起こることを、懇談会などでいねいに説明しています。頻繁にトラブルになる場合には家での様子を聞いて、子どもへのかかわり方を見直しています。		
非 公表 コメント	評価項目1の講評補足		

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに 配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している
あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評		
公表 コメント	登降園時には保護者と積極的に会話をし、家庭と園での様子を伝え合っています	
	登園時には保護者と顔を合わせ、検温後に子どもの様子を確認し、何か変わったことはないか聞いています。元気がない、咳が出るなどいつもと違う子どもの様子を聞いた時は、「お迎え伝達ノート」に記載し、重要な事項は朝礼で共有しています。体調が思わしくない子どもは、こまめに体調確認をして、お迎え時に保護者に詳細を伝えています。コロナ禍のため保護者との会話時間を短縮せざるを得ない状況ですが、要点をきちんと伝え合うように努めています。	
	子どもの発達に合わせて基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援しています	
	園では子どもの発達や状態に合わせた支援を行っています。着替えの服などは自分で出し入れしやすいように環境を整え、子どもが主体的に取り組めるようにしています。排泄や離乳食などは個人差が大きいので、子どもの発達段階に応じて進め、子どもが上手にできた時にはしっかり褒めて、やりたい気持ちを大切に、楽しく身につくよう取り組んでいます。保護者には、入園説明時や面接で、食事や排泄など各年齢の基本的な生活習慣の習得について家庭と連携を取って進めていくことを伝えており、園でできたこともアドバイスとして伝えています。	
非 公表 コメント	降園時には3分間をめやすく子どもの様子を詳しく伝えるよう園全体で取り組んでいます	
	「3分間対応」という、3分間をめやすく子どもの様子を詳しく伝えるという取り組みを行っています。園内研修のロールプレイングで3分が実際にどのぐらいの長さかを体感し、お迎えに来た保護者には、その日の子どもの様子がわかる生き生きしたエピソードを話すようにしています。お迎え時に伝えることは「お迎え伝達ノート」に記載し、伝達漏れのないようにしています。また、保護者に伝えなければいけないことを、手作りの札を使い子どものバッグにつけることで、伝え忘れを防いでいます。	
評価項目2の講評補足		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
	あり	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
	あり	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	
	あり	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評			
公表 コメント	子どもたちの「やりたい」気持ちを大切に、遊びに集中できる環境を用意しています		
	子どもたちの「やりたい」「やってみたい」という思いを受け止め、自由に好きな遊びに打ち込める時間を持てるように環境を整えています。遊びに集中できるようにコーナーを作り、やりたいことができるようにしています。おもちゃは複数用意し、自分で選べるようにしています。職員はワンフロアの保育室の全体を見渡して子どもがどこで遊んでいるか、何に興味を持っているかを観察しています。遊びたくない子どもには、子どもの気持ちを大切に無理強いをせず、「見ているだけでいいよ」と安心できる声かけをしています。		
	日常の保育の中で子どもの言葉に関する感覚を養えるような声かけをしています		
	子どもへの言葉かけについて常に気を配り、職員が話しすぎてしまわないように配慮しながら優しく声かけをしています。0、1歳児には、散歩の際に目に入ったものを言葉にしたり、子どもの喃語や指を差したものを言語化したり、同じ言葉で返したりすることで言葉に興味を持てるような働きかけをしています。2歳児は言葉も増え、会話ができるようになってきているので、子どもの話をじっくり聞いて、ていねいに言葉を返すようにしています。図鑑を見て動物の鳴き声のまねをしたり言葉遊びをしたりする中で、子どもたちは楽しく言葉を覚えています。		
非 公表 コメント	戸外で遊ぶ機会を多く取り入れ、季節を感じられるような取り組みを行っています		
	園では健康な体づくりのため、天気の良い日はほぼ毎日、午前と午後に散歩に出かけています。午前中は長い距離を歩き、午後は午睡後に近場のコースを選んでいきます。乳児だけの園ではありますが、毎日の積み重ねにより、子どもたちは毎日長い距離を歩くことができるようになりました。散歩の際は、「鳥さんいたね」「風が吹いてるね」など、季節や自然を感じられるような声かけをしています。散歩の際には地域の人に挨拶をしたり、信号などの公共のルールを教えたりしています。散歩の際に拾った葉っぱや木の実などを持ち帰り、製作に使っています。		
評価項目3の講評補足			

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表コメント	子どもたちが興味を持って取り組めるような行事を行っています		
	園での行事は、子どもの興味・関心があるものを中心に、季節ならではのイベントなど、通常では味わえない特別な取り組みを大切に計画しています。子どもたちが楽しみながら興味を広げ、成長につながってほしいと考えています。特に子どもの興味・関心のある活動は、日々の保育で継続的に取り組んでいることを大切にして行事に取り入れ、日常の保育との連続性を持たせています。職員は子どもたちにとって何が必要か考え、発達に応じて経験させたいことを取り入れており、子どもたちは行事に楽しく取り組んでいます。		
	「にんげん力。育てます。」という理念のもとさまざまな行事に取り組んでいます		
	子どもたちに「にんげん力」を身につけるために必要な遊び、野外体験を行事に取り入れています。系列園でのどろんこ保育や鳥やヤギとのふれ合い、年4回の芋掘り、苗の植え付けや収穫などさまざまな体験ができる行事を行っています。ざりがにやかめなどに触れる機会を作ったり、魚の解体ショーをみんなで見たりしています。乳児は遊びや生活を通して友だちとのかかわりが増え、楽しさが感じられるようになった時期から行事を取り入れ、運動会などでは人前で発表することで子どもの自信につながるように配慮しています。		
非公表コメント	保護者にも行事予定を知らせて理解や協力を得ています		
	保護者には、4月の入園、進級の際に、年間行事予定を配付しています。計画の際には前回までの行事後の保護者の感想・要望も参考にしています。園だよりでも行事の予定や様子などを伝えていきます。コロナ禍のため保護者参加の行事は少なくなっている状況ですが、準備期間の取り組みや当日の子どもたちの様子は、写真掲示や動画配信などで発信しています。年に4回ある芋掘りは親にも体験してほしいとの考えから参加を募っています。そういった行事では子どもの成長を見て、共に喜ぶ機会となっています。		
評価項目4の講評補足			

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表コメント	保育時間の長い子どもが安心してくつろげる環境になるように配慮しています		
	お迎え時間が遅い子どもたちが家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるようにしています。子どもが寂しくならないように、個々の子どもの気持ちと体調に寄り添い、職員といっしょに遊ぶことを心がけています。眠くなってしまった子どもには休めるように部屋を変えたり、夕食も職員が一人ついて落ち着いて食べられるようにしたりするなど、子どもへの適切な配慮を心がけています。職員は、子どもの一日の疲れや保護者を待つ気持ちを受け止め、個別にいいいにかかわっています。		
	長時間を園で過ごす子どもたちが、楽しく遊べるように工夫しています		
保育時間が長くなる中でも子どもたちが落ち着いて遊べるように、子どもたちの様子に応じて環境設定を行っています。子どもが自分で遊びを選べる環境を作り、じっくりと遊びに取り組み夢中になれるようにしています。図鑑を見たりお絵かきをしたりするなど、静かにゆっくりと遊べるものを選んでいきます。また少人数だからこそ楽しめるおもちゃなどを用意して、特別感を持てるような時間に行っています。延長保育の時間はいつもと違う遊び方ができたり、年齢の違う子どもがお互いに興味を示したりして、刺激を受けられるように工夫しています。			
評価項目5の講評補足			
非公表コメント			

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評			
公表 コメント	子どもが楽しく安心して食べられるように環境を整えています 子どもたちは自分で座る席を決め、食べたいときに好きな子ども同士で食べています。一人ひとりのペースを考慮して、職員が見守り落ち着いて食事をとれるようにしています。食事をとるスペースは生活の場と分け、子どもたちが気分を変えて食事に集中できるよう配慮されています。職員は、口に食べ物を入れたまましゃべらない、などの基本的な食事マナーを伝えながら、子どもが楽しくゆったりと必要な量を食べられるよう気を配っています。食べることに興味のない子どもには無理強いせず、食べたいものだけでも良いことを伝えています。		
	メニューや味付けに工夫を凝らし、おいしい給食を提供しています 給食の献立は本部で作成したものを使用しています。旬の食材を使用して薄味に調理しています。ご飯は5分つき米、砂糖は三温糖など素材にもこだわっています。栄養士は調理室から子どもたちの喫食の様子を見ており、職員ともコミュニケーションを取って保育にも生かしています。行事食や郷土料理の日もあり、1月は「お節料理」、郷土料理として10月は「十和田バラ焼風」などのメニューを提供しています。月1回の給食会議で献立の振り返りを行い、子どもや職員、調理員の意見を取り入れ次月の献立に生かしています。		
	さまざまな食育活動により、子どもたちの食への関心と意欲をはぐくんでいます 園では、どろんこ会グループの「3大食育方針」を基に子どもたちの食に対する関心を養うため、さまざまな食育活動を展開しています。年間農業計画を立て、プランターではピーマン、なす、きゅうりなどの野菜を育て収穫し、クッキングや給食に提供しています。系列園の畑仕事に参加して、栽培や収穫などの体験もしています。0歳児は「野菜に触れる」、1歳児は「カボチャをつぶす」、2歳児は「カボチャクッキー作り」などの活動を行っています。子どもたちの食育の様子や行事食などについて、保護者には園だよりや食育だよりで伝えています。		
非 公表 コメント	評価項目6の講評補足		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
	あり	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	
評価項目7の講評			
公表 コメント	健康診断や歯科検診、身体測定等により子どもの健康状態を把握しています		
	保健計画は、「生活リズムを整え基本的な生活習慣を整える」という年間目標に基づき毎月の目標を定めています。入園前の生活状況アンケートで既往症等について把握し、児童票に記載しています。嘱託医による年2回の健康診断、歯科検診、毎月の身体測定等により子どもの健康状態を把握しています。医療的ケアが必要な場合には保護者と相談のうえ、疾病管理依頼書をかかりつけ医にもらっています。感染症流行時や子どもの急な体調変化の場合は嘱託医、保健所と連携し、相談や状況報告をしています。		
	子どもたちを病気やけがから守るため、保育の中でわかりやすく指導しています		
	園児たちは、登園時や戸外の活動から帰ってきた際に、必ず手洗いとうがいを実施しています。0歳児も無理のない範囲で手洗いを実施し、清潔にする習慣をつけています。絵本や紙芝居、クイズ形式などで手洗いの正しいやりかたや、なぜ必要なかを教えています。汗をかいたら拭く、寒くなったら声をかけるなど、習慣が身につくように声かけをしています。活動の中でけがを防ぐために、散歩や戸外遊び、プール遊びでも、危ないことはそのつど伝え、見守りながら子どもが自分で危険を避ける行動が取れるようにしています。		
非 公表 コメント	子どもの健康維持に向けて保護者と連携をとって取り組んでいます		
	コロナ禍において園児の健康を守るため、徹底的に感染症予防を行っています。おもちゃや遊具はこれまで以上に丁寧に消毒しています。子どもたちには手の洗い方や、咳やくしゃみをするルールなどを伝えています。子どもがかかりやすいさまざまな感染症については、入園時に保護者に詳しく伝え、感染を広げないために、治って登園する際のルールを守るよう依頼しています。園内に感染症が発生した場合は掲示や連絡アプリなどで保護者に伝え、家庭での注意を促しています。乳幼児突然死症候群(SIDS)についても保護者に注意を促しています。		
評価項目7の講評補足			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
	あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評			
公表 コメント	保護者の個別事情に応じて保育時間を変更するなどの支援をしています 保護者には、子育てや就労など個々の事情に配慮して支援を行っています。入園時に保育時間を設定する際には保護者の相談に応じ、無理なく送迎ができるように配慮して決定しています。当日の急な残業などでお迎え時間が遅れる場合も、電話連絡により受け入れるなどできる限り対応して、保護者が安心して仕事ができるよう配慮しています。保護者の通院、出産、その他の事情による時間変更も柔軟に対応しています。急な希望でも当日の16時までに申し込めば夕食も用意することができます。		
	行事や懇談会で、保護者同士の交流の機会を設けています コロナ禍のため、保護者が参加できる行事の機会が減り、保護者同士の交流がしづらい状況でしたが、今年は保護者会を行うことができました。はじめに職員からクラスの様子を伝え、育児の悩みや相談などを保護者同士で話せる場所となり好評でした。6月に行った夏まつりや、芋掘り会では保護者にも参加してもらい、保護者同士が協力して火を起こしたりすることで交流の機会にもなりました。また保育参加も随時受け入れており、園での生活を保護者に見てもらう機会となっています。		
	保護者との信頼関係を深めるため、日々のコミュニケーションを大切にしています 保護者との日々のコミュニケーションを大切に、毎日の連絡帳で日中の子どもの様子をていねいに伝え、送迎時には保護者と子どもについて会話をし信頼関係を築いています。毎月発行している「ポピンズだより」では、活動、今月の歌、畑仕事などについての情報などを保護者に届けています。園では保育参加も随時行っており、園での生活や保育内容を見もらうことで子どもの成長を職員と共感できる機会になっています。その際には、園で子どもができるようになったことなどを伝え、保護者の安心につながっています。		
非 公表 コメント	評価項目8の講評補足		

	9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	評点(〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表コメント	地域との交流を積極的に行い子どもの生活の幅を広げています		
	園では「地域交流計画」として、青空保育、商店街ツアー、世代間交流、異年齢交流、子育てサロンなどの活動を行っています。コロナ禍のため活動内容は縮小していますが、子育てサロンは青空保育として近隣の公園で大型絵本の読み聞かせや、公園での「しっぽとり」などの活動を行いました。地域の子育て中の親子がだれでも参加でき、園児や職員といっしょに遊べる機会を作っています。園の様子や取り組みをいつでも紹介できるように、児童館や公園で出会った地域の子育て家庭に配布するための園独自のパンフレットの作成を検討しています。		
	コロナ禍ではありますが近隣の方々との交流を少しずつ再開しています		
	ふだんの散歩の際には、地域の人と挨拶を交わしています。園で育てている野菜のプランターを園の外に置いておいたため、近所の方が声をかけてくれるようになり、日常的に交流しています。コロナ禍のため機会が減っていましたが、地域の児童館まで遠足で行ったり、青空保育として、交流保育を行い、地域の子どもや保護者と交流しています。こうした地域とのかかわりの中で、子どもたちは公共のマナーを学び、さまざまな職業を知ることができるため、可能になり次第、交流を増やしていく予定です。		
非公表コメント	評価項目9の講評補足		

調査対象	保育園を利用している13世帯を対象に調査を実施しました。在園児は13名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。		
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。		
利用者総数	13		
利用者家族総数(世帯)	13		
共通評価項目による調査対象者数	13		
共通評価項目による調査の有効回答者数	10		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	76.9%		

利用者調査全体のコメント

<p>保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が6人(60%)、「満足」が4人(40%)で「満足」以上の回答は合計10人(100%)でした。</p> <p>自由意見には、「子どもにも保護者にも、とてもいねいな保育、接し方をされていると思います」「子どもの意見を、尊重していただいているのを感じます」「家庭の仕事や事情をふまえて、柔軟な対応をしてくださっています」「連絡帳や口頭の伝達がとてもいいで、子どもの様子がよく伝わります」「保育園のスタッフのみなさんには、日頃から感謝しかありません」「園の方針でもある自然とのふれあいや、十分な運動は、家庭で用意することが難しい場面もあり、助かっています」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。</p> <p>項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか」他4項目で100.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。</p>

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	10	0	0	0
<p>「はい」が100.0%でした。</p> <p>自由意見には、「季節の行事、集団行動、いろいろな先生がいて、家庭でできない成長がたくさんあります」「たくさん散歩に連れて行ってくれるので、集団行動をしっかりと学んでいると思います」「散歩の時間が長く、家庭にはない刺激をたくさん経験できていると感じています」「お散歩が、1日に2回あるのが良いです」などの声がありました。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	10	0	0	0
<p>「はい」が100.0%でした。</p> <p>自由意見には、「おもしろい活動が多いと感じますし、自然に触れる機会も多いです」「子どもが楽しく、一日を過ごしたのだと感じる事ができます」などの声がありました。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	9	1	0	0
<p>「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%でした。</p> <p>自由意見には、「凝りすぎず、栄養がしっかりの良い食事になっていると感じます」「子どもが、食事をよく食べてくれるので、助かります」「アレルギーのある子どもへの対応がきちんとしています」などの声がありました。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	10	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「十分と感じます」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	7	2	0	1
「はい」が70.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「無回答・非該当」が10.0%でした。 自由意見には、「保育時間も柔軟に対応くださり、先生は大変かもしれませんが、とても助かっています」「5分程遅れるなどを快諾していただいたことはあります」などの声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	9	1	0	0
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%でした。 自由意見には、「恐らく、十分と思っております」などの声がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	8	1	1	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が10.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「質問をすれば、きちんと対応してくれますし、保護者への気遣いも感じます」「日々の悩みに、とてもいねいに寄り添ってくださる先生方です。毎日、安心して預けられています」などの声がありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	10	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「先生方も明るく笑顔で接してくださり、安心して預けられます」などの声がありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	1	0	0
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%でした。 自由意見には、「子どもがケガをした時などの報告が少ないので、詳しく報告をしてもらいたいです」という意見がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	2	0	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「いつも子どもの気持ちを尊重して、対応してくださっているのが感じられます」「子どもに根気強く向き合っていたいています」「子どもがどうしたいのか、気持ちをくみ取って対応してくださっているのが伝わり、とても感謝しています」などの声がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	8	1	0	1
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「無回答・非該当」が10.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	7	1	1	1
「はい」が70.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が10.0%、「無回答・非該当」が10.0%でした。 自由意見には、「不満を伝えたことはありません」などの声がありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	7	1	1	1
「はい」が70.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が10.0%、「無回答・非該当」が10.0%でした。 自由意見には、「別機関があることを知っています」などの声がありました。				